

科学的社会認識を育てる授業研究

I 主題設定の理由

科学的社会認識の過程においては、事実認識・関係認識・主体認識の3つがある。その指導においては、それぞれにどのような資料を使い、どのような手だてをとっていかかが大切である。この認識力を養うことが社会科のねらいの一つである。基礎・基本が習得され、ある単元で学んだことと身につけた認識力が他の単元にも応用できること。このことこそが、科学的社会認識を身につけたということではないだろうか。

II 研究の内容

1 小学校部会

科学的社会認識を育てる授業研究を支える観点として「楽しい社会科授業の創造」「習得型の社会科授業」「資料をいかした社会科授業」「活用型・探究型の社会科授業」の4点を設定した。研究授業を中心として、実践的な研究を行った。それとともに、各部員が自分の実践や地域の教材について調べたことを持ち寄り報告することで、日々の実践につなげられるようにした。

(1) 授業実践研究(塩山南小学校)

「近代国家への歩み」 6年 三森 翼教諭

(2) 実践報告・情報交換

(3) 臨地研修 ①甲州市塩山駅周辺地域

塩山駅周辺地域を散策し、明治期の甲州市塩山地域の遺構を見学したり、講師の方に話を聞いたりして、文明開化時の塩山の様子について見識を深めた。

②甲斐善光寺本堂、宝物館の見学

善光寺の住職の方から、本堂の中や宝物館に展示されている物の説明していただき、各自が授業案や資料の作成を行い、研究会で発表した。

2 中学校部会

科学的社会認識を獲得するために必要な方法を研究することにより、次のような生徒の育成につながるものと考え研究を進めてきました。

- ① 学習課題に主体的に向き合える生徒
- ② 追究すべき課題を明確にとらえることのできる生徒
- ③ 自ら、また他者と協力して考えを深め、客観的な判断を下すことのできる生徒
- ④ 出した結論を様々な資料や他者の意見を参考にしながら検証できる生徒

このことこそが、最終的に公民的資質を持った人間形成につながると思えました。そこで、生徒にとって身近な資料を活用することは、「その結果」を導き出す際の大きな手がかりとなるはずであり、それは科学的社会認識を育てるための一つの手段ともなるのだと考えた。

(1) 授業実践研究

山本裕先生（山梨南中）

題材「法のもとの平等とは～ハンセン病患者への差別・国策から平等権を考える～」

(2) 臨地研修〔2回〕… 春日居地区郷土資料館ほか（春日居地区）

山梨市 普門寺（牧丘地区）

(3) 各自の授業実践報告

(4) 情報交換

Ⅲ 成果と課題

1 小学校部会

<成果>

- ・地域素材を活用し、歴史の学習と関連づけた実践になり、とても良かった。その後の歴史学習への良い興味づけとなった。
- ・激動の明治維新や文明開化等について、身近な資料を活用したことで、児童の興味関心を高める楽しい授業の創造に近づくことができた。
- ・臨地研修を行うことで地域を知る機会となり、教材発掘の観点からも大変有効であった。
- ・授業をする先生だけでなく、一人一人が日頃の実践やこれまでの積み重ねを発表することは、とても有意義であった。

<課題>

- ・課題を解決させるために調べたり自分の考えをまとめたりする楽しさを味わわせていきたい。
- ・資料を生かした社会科授業の研究ができたと思うが、資料の厳選や提示方法等に工夫することが望まれる
- ・今年、部員が増えて授業面、運営面でもよかったと思う。更にふやしたい。
- ・研究授業の持ち方を小中で連携してやったり、臨地研修を一緒にしたりしてもいいのではないかな。

2 中学校部会

<成果>

- ・共同研究として全員が略案や資料を提案し、全会員で指導案を検討することができた。
- ・研究授業のテーマに沿った臨地研修を行い、学んだことを研究授業の内容に生かすことができた。
- ・一人一実践の報告により、学習指導の工夫やスキル、教材研究のあり方を互いに学び合い、共有することができた。
- ・様々な場面での意見交換や助言者の先生方からの指導を通して、諸問題に対して社会科教員としてどう考えていくべきか、どう生徒たちに伝えていくべきか、意見交換をし、共有することができた。

<課題・来年度へ向けて>

- ・地域教材について、文献研究やリストづくりなども取り入れて行く。
- ・ICTを活用した授業、郷土学習のあり方などこれからの社会科授業に求められる内容についての研究をしていきたい。
- ・小学校部会とも連携を図り、お互いに授業を見合ったり、合同の臨地研修などを行いたい。